



四中だより

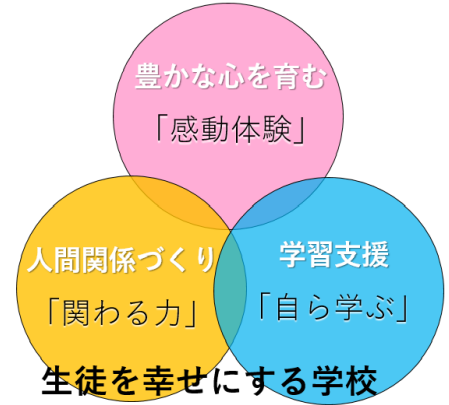
令和3年 4月 8日
荒川区立第四中学校
学校だより 4月号

本年度のスタートにあたり

校長 稲葉 裕之

4月7日(水)、第75回入学式が行われ、104名の新生が入学しました。これにより、本年度の3つの学年の生徒が揃い、全校生292名で令和3年度の第四中学校がスタートしました。現在、新型コロナウイルス感染症が世界全体に大きな被害をもたらし、その影響が今も続いています。学校教育においても、多くの教育活動が中止や延期されるなど、様々な制限を受けています。このため、今後の学校運営についても、保護者、地域の皆様にご協力いただくことも多々あるかと存じますが、何卒よろしくお願い致します。

さて、年度のはじめに際し、本年の本校の経営方針について、入学式の式辞をもとに、紹介させていただきます。



* * * * *

新生生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは今、中学校生活の第一歩を踏み出しました。私は、皆さんの中学校3年間でこうあってほしいという願い、思いがあります。それは、“皆さんの幸せ”です。これからの3年間、皆さんが明るく楽しく、豊かなものにする事で、今のこの中学校生活を幸せに過ごしてほしい。しかし、それだけでなく、私は将来も幸せであってほしいと思っています。3年後、中学校を卒業し社会に出て、行った先の高校で、行った先の職場で、その一員としてやっていけること、それが“将来の幸せ”です。そのために、義務教育最後であるこの3年間は、社会で通用する力を身につける場でもあります。皆さんのこれからの中学校生活が、将来、社会に出てからの幸せに繋がる、そんな3年間にしていきたいです。

さて、そうした充実した中学校生活にしていくために、心掛けてほしい2つのこととお話します。

一つは「自ら学ぶ」ということです。みなさんは、一人一人それぞれの良さ、限らない可能性を持っています。しかし、それも磨くことを怠れば、埋もれていってしまいます。それを伸ばすためには、まず自分から物事に進んで取り組むことが大切です。自分から学ぶ、体験から学ぶ、さらに、人との交わりを通じて学ぶことで確かな学力を、そして、生涯にわたって通用する、そうした「自ら学ぶ」姿勢を身につけてほしいと思います。

二つ目は、人と「関わる」ということです。人は誰も夢や希望、そして悩みを持っています。また、それぞれに個性があります。その上で、共に同じこの社会の中で生活をしています。ですから、自分だけのことを考えているのは、うまくいくはずありません。他の人を認め、互いに支え合うことが大切なのです。今、この状況のなかで、世界で求められているのは、まさにそうしたことではないでしょうか。そして、それは、小さな社会ともいえる学校にもいえることです。誰かが困ったり、悩んだりした時、周りにいる友達が、思いやりの心を持ち、助け励ますことができたなら、どんなに素晴らしいことでしょう。

「自ら学ぶ」こと、思いやりを持って人と「関わる」こと、この2つを心にとめ、中学校生活を輝くものにしていきましょう。

* * * * *

今後、本年度の学校経営方針も示させていただく予定です。今年一年間、保護者、地域の皆様には、行事や学校運営でご協力いただくこともありますが、よろしくお願い申し上げます。